

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993300025		
法人名	有限会社 煌めき 白ゆりの郷		
事業所名	グループホーム 煌めき		
所在地	奈良県北葛城郡広陵町南郷417-1		
自己評価作成日	令和1年6月18日	評価結果市町村受理日	令和1年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	令和1年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して4年4か月が過ぎ、1ユニットで女性ばかりで8名生活されています。いろいろな事情で縁あってご入居されたお一人おひとりにとって少しでもアットホームな雰囲気を感じて穏やかに生活して頂けるよう寄り添ったケアを心がけております。2ヶ月に一度開催している運営推進会議では、毎回地域の方からのご助言やご意見を頂き、運営に活かして頂いています。毎月何かイベントを開催しており、ボランティアの方々にもご協力いただきとても喜ばれています。ご家族にも安心して入居を継続してもらえようご本人の状態の変化をこまめに連絡し、相談しながら誠実な対応に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

竹取物語(かぐや姫)をテーマにした自然豊かな町に開設された事業所です。開設時から自治会に加入され、祭り等の行事には積極的に参加して、地域住民との交流にも積極的に取り組んでおられます。保育所等からの訪問もあり、共に暮らす地域住民の一員として、触れ合う機会も多く持たれています。利用者・家族等から契約時に終末期の意向を確認し、同意を得られています。また、利用者の状態変化時には家族の意向確認を行い、カンファレンスを重ねながらチームで支援に取り組んでおられる等、利用者を支える熱意が感じられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく位置に掲示し、常に意識して支援できるように心がけています。	事業所開設時に全員で作成した理念を食堂・玄関・事務所に掲示し、その理念を管理者と職員で共有してケアに反映されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で情報を得て、できる範囲で地域のイベントに参加していきたいと思っています。	自治会に加入され、祭り等の行事には積極的に参加して、地域との交流を深められています。また、保育所等からの訪問もあり、共に暮らす地域住民の一員として触れ合う機会も多く持たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での地域の方からのご意見に耳を傾け、お役に立てるよう説明させて頂いております。認知症に対してのご理解を頂きたく入居者の日常生活の様子をお話しさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席率が良くとも意義のある会議となっています。職員間での情報共有を行ないサービス向上に活かしています。気軽に意見が言ってもらえるようにしています。	2ヶ月に1回偶数月に開催されています。区長、民生委員、総代、役場職員等の参加の下、事業所の現状報告や情報交換にとどまらず、事業所の目標達成に向けた率直な意見をもらい、サービス向上に活かしておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は密にとらせて頂き、相談や報告させて頂いております。	代表者が町の委員会等の役職に就かれており、市町村担当との連絡は密にされ、利用者の課題解決に向けて一緒に取り組んでおられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みをしていますが、問題が発生した場合は、その都度対応を検討しご家族とも相談させて頂き、転倒、転落の危険性がある時はセンサーマットの使用を提案させて頂いております。	全ての職員参加の下、身体拘束に関する勉強会を実施し、安全面に配慮して利用者が自由に暮らせるよう、職員間で共有が図られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を実施し、一人で抱え込まないように情報交換しています。職員間でも密に連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、制度の理解を深め活用できるよう努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分に説明させて頂いています。不明な点等がないか確認し納得した上で契約させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話での報告時などに、ご要望やご意見を頂いたときには管理者、職員間で情報を共有し運営に反映させています。	家族の面会時には意見や要望を言いやすいように常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めておられます。また、家族等から得られた意見等は前向きに受けとめ、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回運営やケアなどに関する会議を開催し、自由に意見を発表できる機会を設けています。	代表者や管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図るように心がけ、意見が言いやすい環境作りに努めておられます。月1回の会議で、勤務体制等においても職員の意見に配慮し、調整が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の要望を集約、把握してできるだけシフト面などに反映できるよう調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修は、頻度は少ないが研修受ける機会はできている。施設内の勉強会は担当を決めて毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流があり、情報交換しています。イベントへの参加もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わって、誰も知らない場所で生活していく事への不安を抱えておられるので、安心して生活してもらえるように職員それぞれが声掛けしてご本人からいろいろな話を聞かせてもらうことで信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に説明させていただき、不明な点等聞かせて頂き納得した上で入居の手続きをすすめ、ご本人の生活ぶりの変化があれば連絡し安心して頂けるよう支援に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して生活ができ、ご家族にとっても安心して頂けるようにインフォーマルのサービスも利用しながら支援させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顔見知り同士の共同生活を送る中で、体調など互いを思いやるような会話のやり取りやできる方には洗濯物干しやたたみ等手伝って頂いたりと助け合いながら生活されています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化などはTELにて速やかに報告し、面会に来られた時には最近の様子をお伝えさせて頂いたり、毎月郵送にてご本人の様子を書面にて報告させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や以前支えて頂いた関係者の方には自由にご来所していただき、大きな変化がある場合にはご報告させて頂いています。	利用者がこれまで大切にされて来た馴染みの関係が出来るだけ継続されるように、利用者・家族の意見を大切にしながら支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々の生活や好みや言動の状況を見て、ストレスにならないように見守り、時には席替えを行ったりと穏やかに過ごしてもらえるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、本人の様子やご家族の様子を時々伺い、必要に応じて相談や支援に努めたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	症状の進行により、本人の思いや意向の確認が難しいが日常生活の会話の中で伝わってくるものをくみ取りながら本人本位で支援しています。	日々の関わりの中で利用者に声をかけ、意向の把握に努めておられます。また、家族とも頻繁に連絡を取り、どのように暮らすのが利用者にとって最良なのかを検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	少しでも多くの情報を得るために、家族や知人などの関係者が来所された時など生活歴や好みなど聞かせて頂いたりして収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご本人との関わりや職員間での情報の交換や共有をして状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別計画や介護計画を作成し、モニタリングを行い意見交換を踏まえ検討し反映に努めています。	介護計画は3ヶ月に1回見直されています。週4回看護師の訪問もあり、利用者や家族の意向を確認しながらチームで計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子やケアの実施や反応など個別記録に記入し、日々申し送りなど情報の共有をして実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ストレスのかからないように、環境をなるべく変えず慣れた規則正しい生活をしてもらいながら、ご本人の希望になるべく添えるように柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	加齢や病状の進行に伴い安全面の考慮により、地域のイベントの参加に限りがありますが可能な限りで納涼祭りや花火大会、RUN伴に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に協力医による往診の説明をさせて頂き納得の上、主治医を移行して頂いています。ご希望があれば通院にて受診して頂いています。	利用者・家族等が希望する医療機関・医師に受診できるように支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に勤務している看護師を中心に、ご本人の病状について主治医に相談や月2回の往診時に状態の変化などを報告し病気の早期発見と治療に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際に、速やかに介護サマリーを提出して情報提供行ない、病院に出向きご家族と経過を聞きながら適時に退院に向けてのカンファレンスに出席し退院後のケアについての情報を収集して早期退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から終末期のご意向については確認させて頂いていますが、急変時や入院時などにその都度、ご家族の意向確認をさせて頂き主治医との連携を取りながら支援させて頂いています。	契約時に利用者・家族等から終末期の意向を確認し、同意を得られています。利用者の状態変化時には、家族に意向確認を行い、カンファレンスを重ねながら、チームで支援に取り組んでおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えて行動の確認を行なっています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、毎年2回防災訓練を実施しています。地域の区長さんや1回は消防署の立ち会いを要請しご指導いただいています。	年2回避難訓練を実施されています。消防署の立会いの下、具体的な訓練を定期的に行っておられます。また、災害に備え玄関に米、水、缶詰等が準備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	症状が進行しても、人格を尊重して言葉かけさせて頂いています。自尊心やプライバシーを配慮した対応をさせて頂いています。	日々の支援の中で、利用者の自尊心やプライバシーに配慮した言葉かけをするように努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においてなるべく本人の意思による決定がしやすいようにたずねたり、ご本人の希望や思いを気軽に話してもらえような信頼関係を築けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全確保のためになるべく、フロアのリビングで過ごして頂き、日中は集団行動が中心でフロアで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の天候に合わせた服装をしていただけるように声掛け、助言させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を安全にしてもらうように、個々の食事形態を考慮して提供し、食べたいものを聞いて、できる範囲で季節も感じていただけるような食材を使った献立を提供しています。準備や後片付けなど可能な方には手伝って頂いています。	食事は、味わいながら安全に食べられるように、見守りについては万全の配慮をされています。季節の食材をふんだんに使ったメニューも取り入れ、食事が楽しくなるような工夫もなされています。	食事は栄養を満たすだけでなく、利用者に喜びや楽しみをもたらします。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を楽しめる環境作りを前向きに検討されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェックしてある程度、確保できるようこまめにすすめています。栄養のバランスを考えた献立を食べやすさも含めて工夫して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの口腔状態に応じたケアを行なって清潔を保てるようにしています。月二回義歯を使用しておられる方を中心に歯科往診にて診察、口腔ケア受けておられます。口腔管理してもらい指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便の量や時間を記録して、頻度や時間帯などを把握して、トイレでの排泄頻度が増えるように役立て、実践している。	チェック表を基本にして利用者に声かけを行いながら、出来るだけトイレで排泄が出来るように支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェック表を確認して、水分量の確保や適度な運動を行ないながら、状態に応じて主治医より便薬の処方によりコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制の都合もあり、入浴は週2回を基本に行い、ご本人が納得して気持ちよく入浴して頂けるよう、工夫した声かけを行ない個別に支援しています。	利用者や家族等から習慣や希望を確認しながら、無理強いすることなく、基本週2回の入浴を支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に気を配り、安心して気持ちよく休んで頂けるよう支援しています。季節の変わり目等は寝具を調整し、ご本人の反応を見ながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設に勤務している看護師が管理し、体調を見ながら服薬して頂いています。変化があればすぐに主治医に相談し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の状態を見ながら、一人ひとりの得意な事や好きな事を把握し無理なく対応できる範囲で気分転換を図り楽しい時間を過ごしてもらえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ出て散歩したいと希望があれば、できる限り対応できるように努めています。あと年に何回か花見などで外出する機会を持っています。	近隣の神社への散歩や外の空気を吸うことで、気分転換を図られています。また、花火見物にも出かけたたりして利用者のストレスの発散、五感刺激を得られる取り組みも行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、金銭管理は家族に行って頂き毎月お小遣い医療費や消耗品代を差し引かせて頂いています。買い物に関しては個別に機会は少ないですが行っていますが、金銭の支払いは職員が行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはされている入居者は、現在おられません。今後お手紙が届きご希望があれば支援させていただきます。電話の場合はいつでも対応させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のいい環境づくりは、壁掛けや装飾品などは季節感を味わって頂けるよう工夫しています。座席の調整については、混乱やトラブルの原因となる事があるので慎重に行っています	居心地の良さや心身の活力を引き出すために、リビングには季節感や生活感のある飾りつけや装飾を行い、利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切に空間づくりの工夫がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に関係なく、その時の状況に応じて座って頂いたりして臨機応変に対応しています。一人でおられる方がいれば職員が声をかけたりして全体に目を配って対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と相談し、本人が大切にされていたものや思い出の物などを持って来て頂いたり、ご本人が心地よく過ごして頂けるよう配慮しています。	居室には家族の写真や今まで利用者が使用していた思い出の品々が持ち込まれ、馴染みの物を活かして居心地よく過ごせる温かい雰囲気醸成を促しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を確保し、屋内の移動が安全にできるよう工夫しています。掃除などは、洗濯物干し、たたみや食器拭きなどを手伝って頂いています。		